

代数学幾何学演習 II (No.002)

利根川 聡

2003 年 4 月 25 日

4. 行列 $A = (a_1 \ a_2 \ a_3 \ a_4 \ a_5)$ に左から正則行列 P をかけたところ、
$$\begin{pmatrix} 1 & 3 & 0 & 0 & 2 \\ 0 & 0 & 1 & 0 & 3 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & -2 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$
 という形になった。

- (1) $Pa_1, Pa_2, P(2a_4 + a_5)$ を求めよ。
- (2) $a_2 = 3a_1$ を示せ。
- (3) a_5 を a_1, a_3, a_4 の線形結合で表せ。
- (4) a_1, a_3, a_4 は線形独立であることを示せ。
- (5) a_2, a_4, a_5 は線形独立であることを示せ。

5. 次に示すのは、行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & -1 & -1 \\ 2 & 0 & 1 & 0 \\ 1 & -1 & 2 & 1 \end{pmatrix}$ に基本変形を施していった様子である。

$$\begin{pmatrix} 1 & 1 & -1 & -1 \\ 2 & 0 & 1 & 0 \\ 1 & -1 & 2 & 1 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & 1 & -1 & -1 \\ 0 & -2 & 3 & 2 \\ 1 & -1 & 2 & 1 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & 1 & -1 & -1 \\ 0 & -2 & 3 & 2 \\ 0 & -2 & 3 & 2 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & 1 & -1 & -1 \\ 0 & -2 & 3 & 2 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \rightarrow$$

$$\begin{pmatrix} 1 & 1 & -1 & -1 \\ 0 & 1 & -\frac{3}{2} & -1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & 0 & \frac{1}{2} & 0 \\ 0 & 1 & -\frac{3}{2} & -1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

- (1) 以下の文が正しくなるように、左・右 のいずれか一方を選び、下線部にあてはまる行列を求めよ。
 - (1a) 2 番目の行列は、行列 A に 左・右 から行列 _____ をかけると得られる。
 - (1b) 4 番目の行列は、行列 A に 左・右 から行列 _____ をかけると得られる。
 - (1c) 最後の行列は、その直前の行列に 左・右 から行列 _____ をかけると得られる。
- (2) 最後の行列を F とする。 $A = PFQ$ が成り立つような正則行列 P, Q を求めよ。
- (3) $A = (a_1 \ a_2 \ a_3 \ a_4)$ と表すとき、 a_3, a_4 は a_1, a_2 の線形結合で表せることを示せ。
- (4) 連立方程式 $Ax = 0$ の一般解を求めよ。

6. 次の行列の階数(ランク)を求めよ。

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 5 & 3 \\ 2 & 3 & 4 \\ 3 & 1 & 5 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 2 \\ 2 & 3 & 5 & 1 \\ 1 & 3 & 4 & 5 \end{pmatrix}, \quad C = \begin{pmatrix} 1 & 2 & -3 & 2 & 1 \\ 1 & 3 & -3 & 2 & 0 \\ 2 & 4 & -6 & 3 & 4 \\ 1 & 1 & -4 & 1 & 6 \end{pmatrix}$$

7. 以下の行列の行列式および逆行列を求めよ。 C, D に対しては、逆行列が存在するための x の条件も言え。

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 0 & -1 \\ -3 & -5 & 1 & 2 \\ 1 & 3 & 2 & -2 \\ 0 & 2 & 1 & -1 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 7 & 4 & 2 & -3 \\ -2 & -1 & 5 & -6 \\ 0 & 0 & 3 & 5 \\ 0 & 0 & 1 & 2 \end{pmatrix}, \quad C = \begin{pmatrix} x & 1 & 0 & 0 \\ 0 & x & 1 & 0 \\ 0 & 0 & x & 1 \\ 0 & 0 & 0 & x \end{pmatrix}, \quad D = \begin{pmatrix} x & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & x & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & x & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & x & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & x \end{pmatrix}$$

8. 次の連立方程式を解け。(3)では、連立方程式が解をもつような定数 a の値を求めた上で、解を求めよ。

$$(1) \begin{cases} x + 2y - z + 8w = 10 \\ 2x - 3y + z - w = -1 \\ -x + y + 4z - 5w = -1 \\ x - 2y + 2z - 3w = -2 \end{cases} \quad (2) \begin{cases} 2x + y - z + 6w = 4 \\ -x + 5y + 2z + w = 10 \\ x + 2y + 3z + w = -4 \\ 2x - y + z + 8w = -2 \end{cases} \quad (3) \begin{cases} x + 3y + z = 3 \\ -2x + 2y + 3z = -2 \\ ax + y - 2z = 5 \\ -x - 2y + 2z = -12 \end{cases}$$

9. 以下に与えるベクトルの組 $\langle f_1, f_2, f_3 \rangle$ にシュミットの直交化法を適用して、正規直交基底 $\langle e_1, e_2, e_3 \rangle$ を作れ。

- (1) $f_1 = (1, 1, 1), f_2 = (0, 1, 1), f_3 = (0, 0, 1)$
- (2) $f_1 = (1, -2, 1), f_2 = (1, 2, -3), f_3 = (2, 1, 1)$
- (3) $f_1 = (4, 1, 1), f_2 = (1, 0, -1), f_3 = (2, -4, 5)$
- (4) $f_1 = (1, i, 0), f_2 = (0, 2, i), f_3 = (1, -i, 3)$
- (5) $f_1 = (i, -1, 1), f_2 = (2 + i, -i, 2 + i), f_3 = (3, 1 - i, 2)$
- (6) $f_1 = (1, 1 - i, i), f_2 = (-1 + 2i, 1, -1), f_3 = (i, 1 - 2i, 1)$

10. $a_1 = (1, 0, 1), a_2 = (0, 2, 2), a_3 = (3, 7, 1)$ とおく。

- (1) a_1, a_2, a_3 が線形独立であることを示せ。
- (2) $b = (-1, 3, -7)$ を a_1, a_2, a_3 の線形結合で表せ。
- (3) $c = (-6, c, 3)$ とおくと、 a_2, a_3, c が線形従属となるように c の値を定めよ。

11. A, B を実数を成分とする n 次正方行列とする。

- (1) A, B がともに逆行列をもつとき、積 AB も逆行列をもつことを示せ。

(2) A および積 AB が逆行列をもつとき、 B も逆行列をもつか？証明または反例を与えよ。

12. A, B を実数を成分とする n 次正方行列とし、 A は直交行列であるとする。

(1) B が直交行列ならば、積 AB, BA も直交行列となることを示せ。

(2) 積 AB が直交行列ならば、 B および BA も直交行列となることを示せ。

13. A, B を実数を成分とする n 次正方行列とする。

注：任意の A, B に対して ${}^t(AB) = {}^tB {}^tA$ が成り立つことは、証明なしに用いてよい。

(1) A が正則行列ならば tA も正則で $({}^tA)^{-1} = {}^t(A^{-1})$ が成り立つことを示せ。

(2) A が正則な対称行列ならば A^{-1} も対称行列となることを示せ。

(3) A, B が対称行列ならば積 AB も対称行列となるか？証明または反例を与えよ。

14. 行列 A を $A = \begin{pmatrix} A_{11} & A_{12} \\ O & A_{22} \end{pmatrix}$ (ただし、 A_{11}, A_{22} は正方行列とする) と分けるとき、以下の問に答えよ。

(1) A が正則であるためには A_{11}, A_{22} がともに正則であることが必要であることを示せ。

(2) A_{11}, A_{22} がともに正則ならば A も正則であることを示し、 A^{-1} を A_{11}, A_{12}, A_{22} (および、必要ならばその逆行列) を用いて表せ。